



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

日本	一般
若者たちが、召命を誠実に受け止めることができますように	新しい環境で生活を始めた人々が、希望のうちに日々を過ごすことができますように

復活教書

信徒も「宣教する人」に

― 福者高山右近に背中を押されて ―

大司教 ヨセフ 高見 三 明



主キリストのご復活のお慶びを申し上げます。
御父のいつくしみは、その独り子イエスのご生涯、特に、人類の永遠の救いのためにご自身を死に渡し、三日目に復活されたこと、その救いの業が福音として今に至るまで宣べ伝えられ、祝われていることに示されています。

ところで、一昨年の日本の信徒発見150周年の折に、わたしは「教区シノドス提言」を公布しました。そしてそれらの提言を教区の皆さんが実行に移すのを助けるために「教区シノドス提言推進会議」を設立しました。それは、個人や家庭や小教区レベルですぐに実践できる提言はともかく、教区レベルで優先すべき提言を選択し、その実践を助けるためでした。優先順位は、「カテキスタの養成」(提言6)、「小共同体の推進」(提言2)として「ミゼリコルディア長崎の設立」(提言8)となりました。現在、その実現に向けて準備をしているところです。

そこで、今日は「カテキスタ」について述べたいと思います。「カテキスタ」の字義は「口頭で教える者」で、一般に「教え方」「要理教師」と訳されています。教会法典でも、教会の宣教活動にあたってカテキスタは「十分な養成を受けキリスト教生活において秀でて」おり、「宣教者の指導のもとに福音の教えを伝え、典礼行事や愛徳の事業を組織することに献身する」(第785条第1項)信徒を指しています。実は、このような信徒はすでに400年余り前に日本にいたのです。その名は、福者ユスト高山右近です。福者右近は専門的な養成を受けたカテキス

タとはいえませんが、すべての信徒が目指すべき「宣教する人」の姿を具体的に示しています。正直「とても右近殿のようににはできない」とおっしゃるかもしれませんが、生きた模範を神様から与えられていることは大変ありがたいし、幸甚なことです。

単なる過去の記念ではなく

大浦天主堂で信徒発見ミサ

日本の信徒発見の聖母を祝うミサが3月17日、午後7時、大浦天主堂で行われた。高見三明大司教と20人余の司祭団の共同司式により、200人以上が祈りをささげた。大司教は説教で、2年前の信徒発見150周年に合せてまとめられた教区シノドス提言を振り



返り、カテキスタをはじめとする信仰を語り伝える人の必要性を強調した。そして「信仰は守るだけでなく、分かち合い、伝えなければならない」とし、「嫌いな相手がいなくても、それをいかに愛の世界に変えていくか。人を愛し、ゆるす心。私たちの目の前には常にイエスが示さ

した理想がある。マリアの導きによって、私たちがイエスの教えを言葉だけでなく心からの行いを通して積極的に伝えていくことができるよう祈りたい。信徒発見は単なる過去のことを記念する日ではない。これから先私たちがどう生きていくかを考えなければならぬ日だ」と語った。

閉祭後、神学生(長崎カトリック神学院12人と聖ルドヴィコ神学院1人)と志願生(お告げのマリア修道会6人)の自己紹介があり、参加者皆が召命のために祈る思いを新たにしました。

福者右近は10歳の頃洗礼を受け、21歳の頃高槻城主、その12年後に明石六万石城主になりました。しかし2年後、秀吉に棄教を勧告され、棄教を拒むと追放され、翌年金沢城主前田利家の客人となりました。最後には家康の禁教令によってマニラに追放され、殉教の生涯を閉じました。その間、特に高槻城主になってから最期まで、右近はその人間的な才能、信仰の恵みなどすべてをキリスト信者としての生き方として織り上げ、特に福音を伝えることに全力を注いだといえます。

1 福者右近には、人間として、人の心を引きつける天分があり、

2 今のように日本語訳の聖書がなく、要理書も簡単に手に入らない中、最初のうちは他の人と一緒に宣教師や修道士の説教を聴き、明晰な判断力と優れた理解力でわずかの間にキリスト教を正しく理解したようです。また、家臣や友人の武将たちに宣教師や修道士の説教を聴かせるだけでなく、自分も熱心に教えることができました。話術に長け、話が大変上手だったため、多くの人を信仰へ導きました。特に、信者としての品行の生きた手本であり、皆の保護者でした。右近の模範的な生活が、信者の心を動かす最も良い説教でした。それによって古い信者は信仰を固く守り、新しい信者が生まれまし

3 神と話す場合、つまり祈る場合には、人との話術にまじてさらに達人でした。「右近殿はよく茶室にひきこもり、床の間に御像を置

き、長い時間を祈りに捧げていた」(ジョアン・ロドリゲス・ツツ神父の証言)。茶人としては、千利休の七哲の一人として名を馳せましたが、彼にとって茶道は、神を模倣し、神との密接な一致に達するのを助けるものにほかなりませんでした。また、ロヨラの聖イグナチオの霊操を人生の重要な節目に行っています。

彼は、深い内面的な人だっただけでなく、積極的な奉仕活動、特に「慈悲の所作」を実践しました。例えば、右近は父ダリオと共に死者の棺を担ぎました。それは、いかに貧しい人、最下層の人でも名誉ある葬儀をしてもらう権利があること、また身分のある者にとっても進んで死者の世話をすることは、決して名誉を損なうことではないことを身をもって示すためでした。さらに、父ダリオと同様右近も、神の国のために必要な物惜しみせず、高槻でも金沢でも自費で教会や司祭館を建てています。

4 右近には何よりも宣教の熱意がありました。高槻から始まって、明石でも金沢でも、行く先々で、あるいは追放の身にあっても、ひたすら福音宣教に努め、いつも多くの実りを与えられました。彼は、神から恵みとして与えられたものを、神の霊によって知り、霊に教えられた言葉によって説明したのでしよう(1コリント2・12〜13参照)。「福音を告げ知らせないなら、

わたしは不幸なのです」(9・16)。「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」(9・23)と言った。「折が良くて悪くても」「御言葉を宣べ伝え」ました(Ⅱテモテ4・2参照)。彼は、誰も彼を引き離すことのできなかったキリストの愛に駆り立てられて(ローマ8・35〜39、Ⅱコリント5・14参照)、福音を告げずにはいられなかったのです。

5 関白豊臣秀吉から信仰を捨てよう迫られたとき、彼はきっぱりと大名の身分と財産を捨てて信仰を選び取る決断をしました。その後、捕らえられた26人と一緒に殉教する覚悟で金沢から京都へ赴いたそうですが、石田三成の裁量で名簿から外されました。しかし、將軍徳川家康は、キリシタン禁令を全国に布告したとき、信仰を捨てようとしないうちにマニラへの追放を命じます。1614年2月、能登四万石の財産も貴重な茶道具も放棄し、妻と娘と5人の孫を連れて金沢から坂本(大津)へ雪道を歩き、大坂、さらに長崎へ2カ月の旅をしました。マニラに着いて約40数日後、1615年2月3日の夜、63歳の生涯を閉じたのでした。

「流罪に処せられる間に死ぬ、……そのほか、いずれの場所にあってても辛勞難儀の道により死ぬことはマルチリヨである」(「マルチリヨの心得」と「マルチリヨ」は「殉教」すなわち「証し」です。

2月の司祭研修会で、参加者たちは遺言書を作成、提出した。「死んだ後のことまで心配しようなか」の声に、「教区本部が後処理に困るけん、迷惑掛けん」というので、「といさめる司祭も。私自身は準備が間に合わずまだ提出していないが、できるだけ早く書く」と思っている▲島本 要大司教の秘書をしている時、部屋に呼ばれてある指示を受けた。「私が死んだら、この棚にある書類は後任の司教様に渡してね。封をしてるものは、中を見ずに焼却すること。その他は自由に処分していいから。よろしくね。」天に召されたのは、それから1年後のことだった▲「わたしの持ち物はすべてもらったものです。それで、すべてを長崎大司教区にお返しします。長崎大司教区の皆さんは、司祭も、修道者も、信徒も皆、わたしに対して極めて心温かく寛大でした。」島本大司教の遺言である。その寛大さには報いるために、無駄遣いは極力避け、必要最低限の出費に抑えてきたことがうかがわれていた。私がいまだ遺言書を作成できない理由は、死への無関心というよりも、ものへの執着にあるのかもしれない▲死を思うということとは、余計なものを明日に携えず、その日を大事に生きることだと聞いた。その日すべき苦勞をその日にしてきたか(マタイ6・34)、5年にわたる三ツ山小教区主任と広報委員長の任を終えるにあたり、自らに問いかけている。(F・O)

“自信を持ってこの道を”

喜びと感謝に包まれて司祭叙階



ペトロ下原和希神父

3月19日(日)午後3時から浦上教会において、高見三明大司教司式のもと、土井ノ浦教会出身のペトロ下原和希助祭が司祭に叙階

された。叙階式には80人余の司祭と、聖堂を埋めつくすほどの修道者や信徒らが参加し、心を一つにして司祭の誕生を見守った。



初めの祝福を両親に

ミサ前の講話は川端志範師(土井ノ浦主任)が務め、「司祭誕生は大きな喜びです。キリストを映し出す人、キリストに出会う道具を私たちは喜んで受け取りましょう」と説いた。叙階式中、高見大司教は司祭職について訓示し、「司祭の手を通して、信者の奉獻はキリストの奉獻と結び合わされるのです」と論じた。

ミサの終わりに新司祭は、この日まで支えてくれた両親を祝福し、参列者は拍手でその様子を喜んだ。両親は「自信を持ってこの道を歩んでほしい」と期待を寄せた。



高山右近列福へのカテケージス (完)

ユスト高山右近という生き方

― にじり口からの福音 ―

列聖推進委員会 古巣馨

◆こんなもんだろうな

おおかた親しい人たちは見送ってきたし、もう涙の壺も涸れていると自覚していました。しかし、去る2月7日大阪での列福式、「1615年にマニラで殉教した神

◆難民の一人になって

1587年7月24日、秀吉による棄教の命令を固辞した右近は、大名職の剥奪・改易・追放の身となります。右近は、博多沖の能古島から小船で瀬戸内海を渡り、室津で家族やオルガンティノと合流していま

◆言い訳をしない人

追放後、室津でオルガンティノと再会した右近は、めずらしく語気を強めて殉教への思いを語っています。「これから教会へ

人事異動・任命

(一) 内は前任地

▼教区 (4月30日異動) (1)は2月2日 (2)は4月17日

下川 英利師 引退 (諫早主任)
堤 好治師 引退 (佐賀・呼子主任)
山川 忠師 伊万里トラピスチヌ修道院付 (上崎崎主任)

大山 繁師 黒島主任 (黒崎主任)
松下 光男師 上崎崎主任 (水主町主任)
小瀬良 明師 浦頭主任 (佐々主任)

橋口 朝光師 相浦主任/佐世保地区長 (青方主任/上五島地区長)
山田 聡師 島原主任/平戸地区長 (平戸地区長)

眞浦 健吾師 青方主任/上五島地区長 (長崎カトリック神学院院长)
葛嶋 秀信師 黒崎主任 (相浦主任/佐世保地区長)

中濱 繁喜師 西木場主任 (大曾主任)
山村 憲一師 平戸主任/平戸地区長 (福岡コレジオ院長)

岩崎 晋吾師 諫早主任 (浦頭主任)
浅田 照明師 太田尾主任 (西木場主任)

川原 拓也師 桐主任 (榑崎主任)

松田 聡史師 長崎カトリック神学院院长 (桐主任)

嘉松 宏樹師 佐々主任 (カトリック中央協議会)

山田 良秋師 三ツ山主任/広報委員長 (島原主任)

大瀬良直人師 三井楽主任 (黒島主任)

竹谷 誠師 大曾主任 (三井楽主任)

川口 昭人師 水主町主任 (太田尾主任)

中尾 直通師 長崎カトリック神学院 (伊万里トラピスチヌ修道院付)

大水 満師 樺崎主任 (長崎カトリック神学院)

稲田 伸也師 イタリア留学 (2) (浦上助任)

下原 和希師 浦上助任 (2) (新司祭)

▼派遣 (4月1日異動)

大水 文隆師 カトリック中央協議会 (三ツ山主任/広報委員長)

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会 (4月1日異動)

濱田 盛雄師 湯江助任 (湯江修道院)

大曾 昭師 湯江修道院 (愛知・春日井修道院)

瀧 憲志師 湯江修道院 (聖母の騎士修道院)

崎濱 宏美師 聖母の騎士修道院 (東京・本部修道院)

山下 公輝師 湯江主任 (小長井修道院)

大野 幹夫師 聖母の騎士修道院 (那覇・宮古平良主任)

山口 雅稔師 本河内主任 (東京・関町修道院)

李 信衡師 聖コルベ志願院/本河内助任 (イタリア)

柳本 繁春師 奄美修道院 (本河内主任)

西本 仁史師 本部修道院 (小長井修道院)

赤尾 満治師 兵庫・仁川学院マリアの園幼稚園/仁川修道院 (聖母の騎士社)

平 孝之師 関町志願院/修学院/本部修道院 (聖母の騎士修道院)

谷村 達郎師 愛知・瀬戸助任 (聖コルベ志願院/聖母の騎士修道院)

▼聖アウグスチノ修道会 (4月1日異動)

今田 昌樹師 城山助任/聖マリア学院理事長/聖マリア幼稚園園長 (福岡・笹丘助任/笹丘カトリック幼稚園園長)

の和みを心底願いました。受けた神の言葉は、すぐに意識をかすめなくても身体に沈殿して残るものです。だから、名もない野の花を茶室の静寂に備える心は、いつしか置き去りにされて震える人たちに向かいま

◆調和と和みの中で

1615年2月3日、右近の難民生活は最後の追放先マニラで終わります。63歳でした。苦悩と挫折の人生を通してキリストと出会い、難民となって貧しさのにじり口

をくぐり、風のささやきを聴きながら、すべてを神に帰すことを知った右近。何が嘘で何が真実か、時勢に迎合することなく、絶えずにじり口をくぐりながら識別と決断の人生

で生きた。風に吹かれる人の佇まいは、なぜか深い静けさがあります。にじり口から携えた福音は、調和と和みでした。

華やかさとは無縁の右近は、傷つき壊れやすいものを気遣い、生きとし生けるもの

「殉教者を生むのは痛みではなく、日々の生きる動機なのです」(アウグスチヌス)。長崎の教会は派手なイベントやお祭りではなく、地道で素朴な日々の暮らしの中に信仰を育み、そつと伝えてきました。実りを手にしなくとも、地道に神に頼る人のまなざしは、昔も今もよどみなく深いのです。にじり口からの福音が、手探りの遅々とした歩みを続ける長崎の教会の確かな進路となりますように。

マイケル・ヒルデン師 福岡・笹丘協働/笹丘カトリック幼稚園園長 (城山助任/聖マリア学院理事長/聖マリア幼稚園園長)

▼イエズス会 (2月17日異動)

アギラール・J・ホセ 東京・ロヨラハウス (二十六聖人修道院)

▼フランシスコ会 (4月1日異動)

戸村 悦夫師 本原主任 (本原助任)

江夏 国彦師 福岡・戸畑、若松主任/戸畑天使園園長 (本原主任)

▼神言修道会 (4月1日異動) (1)は7月 (2)は1月1日

スタニスワフ・ポウオムスキ師 西町主任 (新潟・見附、栃尾主任)

セルファシウス・サルファノ・ジャマン師 西町助任 (1) (新司祭)

アルフォンス・アフリ・ディエゲル師 聖ルドヴィコ神学院指導司祭 (新司祭)

ジェブーラ・エウゲニウス師 愛知・管区本部/日本管区長 (2) (西町主任)

ブー・カイン・トゥオン師 岐阜・多治見助任 (聖ルドヴィコ神学院指導司祭)

2人の小神学生が卒業

宮原司教「福岡で待っています」



卒業証書を広げる吉原神学生(右)と岩橋神学生

大切なのか、また自分のしたいことばかりでなく、コレジオで生活すること、をきちんと見極め、そして受け止めて、自分の召命の道の完成のために最後まで頑張ろうと話されました。

2月28日(火)長崎カトリック神学院において、福江小教区の吉原裕則君と福岡教区・今村小教区の岩橋昂宏君の卒業式が行われました。

式には、高見三司大司教様、福岡教区の宮原良治司教様、神学生と関わりのある方々や協力者、保護者が参列してくださいました。高見大司教様は、今の時代の流れの中で生きていく上で、何が

院長 眞浦健吾

典礼暦に応じた工夫を

中区家庭委が講習会

長崎中地区家庭委員会は2月19日(日)、「家庭での四旬節・復活節の過ごし方」と題した講習会をカトリックセンターで開催した。講師は、教区家庭委員会委員長の中濱敬司師が務めた(写真)。



今回の講習会は、昨年11月に教区家庭委員会が行った「家庭での待降節・降誕節の過ごし方」に続く第2弾。同委員会では、シノドス提言を受けて、特に家庭での祈りの場、その雰囲気づくりに着目している。家庭祭壇が

子どもと女性の 人権相談室

4月3日開設

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されるポスターをご参照ください。

場所 カトリックセンター別館
連絡先 095・865・7829
時間 月～金 10時～16時

*第3月曜日と休日(祝日・教区本部事務局休業日など)を除く
相談室担当デスク 福田真理

神は善い方である

被災地での司牧体験から学ぶ

戸地区会
平講

2月26日(日)午後2時、平戸地区評議会主催の講演会が田平教会信徒会館で開催され、信徒や修道女ら約100人が熱心に聴き入った。

講師は、伊万里の聖母トラピスチヌ修道院で奉仕している中尾直通師(長崎教区)。演題は「神は善い方である」で、東日本大震災翌年に宮古教会(岩手県)に派遣され、考えたことを、その後の留学中に学んだ教父学の



光に照らして考察した。始めに中尾師は、宮古教会に赴任するにあたり

今、私たちに求められて いること

教区青年黙想会

3月5日(日)、大司教館での教区青年黙想会に参加しました。小島栄神父様(大司教館)の指導の下、「生きにくい世の中で生きる私たち」というテーマでした。

講話では、現代社会を生きて感じる閉塞感や神父様の経験を絡めて、現在の教会に存在する問題点、私たち青年に対する期待をお話しになりました。

講話の後は、グループ別に分かち合いが行われました。さまざまな立場



や経験を持つメンバーの感じたことを分かち合うことは、いい刺激になりました。またグループごとに共同祈願を作り、最

クリスマス募金、 一葉募金の支援報告

(東京) 50万円▼大阪府 1月15日にかけてクリスマス募金の協力を呼び掛けたカトリック長崎大司教区評議会は、2月28日までに集まった約550万円を、昨年度の繰越金と合わせて次の被災地や困窮者の支援のために送金した。

▼コンゴ平和学園校舎増設支援 50万円▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎タルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼山友会

困窮者への支援 50万円▼東日本大震災復興(大槌ベース関係)支援(2015年度分と2016年度分) 各50万円▼佐

ニジオス・アレオパギテス率直に語った。震災後1年の被災地の状況に涙すると思っていたのに、不思議と涙は出なかったという。それは本人に東北の記憶も思い出さないからだ。そこで、被災地の信徒や地域の人たちの記憶を刻み、絆を深める努力をし、共に歩む中で、「神は善い方である」という確信に至ったという。教父の偽ディオ

世保隣人愛の会 20万円▼一粒の麦の会「ひまわり」10万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼聖ヴィンセンシオン・

10万円▼シナピス会 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼フードバンク長崎 10万円。

また同評議会は、一葉募金の支援先を次のように決め、送金した。

▼福岡教区支援(熊本震災救援) 200万円▼大分教区支援(熊本震災救援) 50万円▼カリタスジャパン(熊本震災救援) 100万円▼長崎南地区信徒の火事見舞い(2件) 各15万円▼上五島地区信徒の火事見舞い 15万円。

下川師と堤師が引退

両師の健康を祈りながら、司牧者としてのこれまでのご活躍に感謝の意を表したい。

洗者ヨハネ

下川英利師



1933年4月10日南松浦郡新上五島町生まれ

セバスチアノ



1935年8月20日和歌山市生まれ。屋形町教会(大阪教区)で受洗。出津教会出身。

63年3月24日大阪・玉造教会で司祭叙階。同年4月大阪・玉造助任、65年兵庫・尼崎助任、66年大阪・香里助任、67年兵庫・明石助任、71年貝津

短 信

〈堅信式〉

1月29日(日)水主町教会で中学生5人、2月12日(日)本原教会で同小教区の10人(中学生6人、大人4人)と城山小教区の中学生3人が合同で、2月26日(日)滑石教会で同小教区28人(中学生16人、大人12人)と津小教区の中学生4人、島原小教区の中学生1人が堅信の秘跡を受けた。

ふたつ園

▼聖香油ミサ 4月11日(火)10時30分、浦上教会。▼イースターたまご杯ス

ポーツ大会 4月30日(日)13時～17時、大司教館体育館。対象・中高生、青年(18歳以上)。運動に適した服装と上履を。主催・長崎南地区青年会。問合先・工藤神父(木鉢教会、教区青少年委員長) Tel.095・865・1039

感 謝

― 寄 付 ―
長崎カトリック神学院
●高橋静子様 (兵庫県)

― 香典返し ―
長崎カトリック神学院
●吉浦サト子様 (長崎)

故ペトロ吉浦春夫様
右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

2017年度 聖書講座・信仰養成講座

- ◆聖書講座
開講日：4月20日(木)
テーマ：知恵文学・詩歌
 - ◆信仰養成講座
開講日：4月22日(土)
テーマ：信仰宣言
 - *4月19日(水)申込締切
 - *詳細は小教区にお配りしている案内をご覧ください
- 教区生涯養成委員会

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 晃
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話(095)846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話(0957)50-3008



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

悪に悪で返すことなく

平戸、佐世保北部で合同堅信



2月19日(日)、高見三明大司教を紐差教会に迎え、午後2時から平戸地区の合同堅信式が行われた。今年は平戸地区8小教区のうち、6小教区18人の中学生が堅信式に臨んだ。

高見大司教はミサの説教で、「悪いことに悪で返すなら終わりが無い。信仰の証し人としての自覚をもって、またいただいた恵みに感謝して生きるように。あわせて2月

このみことばは、たびたび私の心に響きます。時々、良心の声を通して聞こえてきます。私が自分をもっと与えた方が良かったのではないかと、という反省の根柢となつています。日本のカトリック信者の方とお話する機会があり、信者になつた道程などを聞きますと、本当に私がどれほど神様から良いものを頂いているか、(自分には何も功績がないのに)すべてたまたまのとして受けているということを一層自覚します。

子どもの時からの信仰

が地位や財産や故郷をも捨てるほどの信仰を表したように、神の恵みがあれば、私たちも乗り越えることができる」と説教した。

7日に列福された高山右近に学んでほしい」とと受堅者を励ました。感謝式では田平教会の山口史斗君(中2)が、「これからより信仰を固め、強く表していきま



多く与えられた者は、多く求められる。(ルカ12・48)

みことばにふれて136

Sr. ツェリナ・スキピツカ

(けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会)

は、私にとって明白なことで。誕生後1カ月で洗礼の恵みを頂きました。日曜日ごとに両親と一緒に教会に行きまし

た。それだけではなく、4、5歳の幼児でしたが、キリストの御聖体の祭日に民族衣装を着て、私の村の習慣で村の中心を行

浦上信徒宣教者の思いを訪ねて

今村信徒発見150周年を記念し、徒歩巡礼



浦上信徒が歩いた約90kmをたどった

「宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう」(ロマ10・14)。江戸時代の終わり、死んでしまつていたかに見えた日本

いった。大浦天主堂での司祭発見(1865年3月17日)後、いわば信徒宣教者として「良い知らせ」を各地に伝えまわつた者たちがいる。



到着後、今村教会で感謝のミサ

今村に到着した彼らの熱心な証しを受け、翌26日朝、ついに今村潜伏キリシタンたちは信仰を表明する。

日、彼らの思いに触れるため、今年も5人の司祭たちで、彼ら4人がたどつた道をたどつた。神のみことばに「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」(ロマ10・15)とあるが、「良い知らせを伝える足」には痛みがあるからこそ美しいのかもしれない。「今夜の惣業に鳥はいかがでしよう?」「今は食べる時ではありません。」時は四旬節、今村潜伏キリシタン宅での証しの始めであつた。

青砂ヶ浦小教区

主任 岩崎康彦

がんばってよかった

6人が要理教師二級資格を取得

教区生涯養成委員会は3月5日(日)カトリックセンターにおいて、2016年度要理教師二級資格証書授与式を開催、高見三明大司教が証書を授与した。

川井良子さん(中町)、早田誠さん(長与、竹中政夫さん(長与)、中嶋信行さん(浦上)、深堀美佐子さん(浦上)、松下邦代さん(浦上)の6人。2

試験を経てこの日を迎えた。「毎週土曜日の講座に参加するために時間を作るのは大変だったが、がんばってよかった」「教会学校の現場で、さらに成長していきたい」などの感想を述べ、喜びとともに新たな決意をもつて式に臨んでいた。

長崎教会管区の東日本大震災復興支援担当委員会、3月11日(土)午前9時、高見三明大司教様主司式でカリタス大槌ベース宿泊所(岩手県上閉伊郡大槌町桜木町)の開所ミサをささげました。



大槌ベース宿泊所が開所

これからもいつくしみ深い人に

「教区シノドス後の優先課題の一つとしてカテキスタの養成が挙げられており、その養成方法が改めて検討されている。その中で、今回資格を取得された方々の存在は貴重であり、その奉仕の精神が各教会共同体の中で活かされることをお祈りしている」と語っている。

長崎教会管区の東日本大震災復興支援担当委員会、3月11日(土)午前9時、高見三明大司教様主司式でカリタス大槌ベース宿泊所(岩手県上閉伊郡大槌町桜木町)の開所ミサをささげました。

月、亡くなられた古木眞理一神父様(サレジオ修道会)の冥福を祈り、「天の父がいつくしみ深くあられるように」「これから助けを必要とする人々に目を向けるよう願われました。

教区本部 松尾勝

聖アウグスチノ修道会

司祭叙階式のお知らせ

日時 4月22日(土) 午前11時

場所 城山教会

受階者 ヨハネ 松尾太

(福岡・笹丘)



尽力し、昨年6

主の平安

五島中央会館 五島留会館

五島式典社(斎場) 五島奈留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上大津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551

FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101

FAX (0959) 64-3102

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

事務局 ベトロ 田川慶司

0120-44-6666

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台

佳織木工所

kaori-mokkousho.com

《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。》

〒857-0032 佐世保市宮田町7-7

☎0956 (23) 1867

代表 ラウラ・ピケニア 濱口 佳織

石 碑

文字彫刻

墓地工事

リフォーム

墓地分譲

なが さき せき ちよう

長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付

白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

☎長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8488

長崎カトリックセンター前 長崎市上野町1-5

TEL 095-845-6175

医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也

内科・循環器科・入院可

通所リハビリテーションあり